

第37回アジア自転車競技選手権大会 第24回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

シクリスムエコー No.223 2017年2・3月号

<特集号>



左から渡邊、プロアコーチ、脇本

アジア選手権エリート男子ケイリン決勝の脇本(先頭)と渡邊

Table with 2 columns: Event Name and Page Number. Includes items like 'アジア選手権トラックレース' and 'アジア選手権ロードレース'.

KEIRIN logo and text: 'この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。 http://ringring-keirin.jp'

RINGRING! logo and text: '無限の夢へ、走りだそう。 RINGRING! プロジェクト 競輪の補助事業' and a small text box about local government support.

ASIAN CYCLING TRACK

5th-10th Feb. 2017



2017年トラックアジア自転車競技選手権大会 日本代表選手団

大会名 2017年トラックアジア自転車競技選手権大会

大会日程 2017年2月5日～10日

派遣日程 2017年2月2日～12日

開催場所 インド・ニューデリー

代表選手団

- コーチ フノア・ヴェトゥ (短距離ヘッドコーチ)
- ジェyson・ニブレット (短距離コーチ)
- 飯島 誠 (中距離ヘッドコーチ)
- 折本 裕樹 (ジュニア強化育成部会長)
- 宮本 文晴 (ジュニア強化育成スタッフ)
- メカニック 森 昭雄 (強化支援スタッフ)
- 高橋 優平 (強化支援スタッフ)
- マッサー 中山 真臣 (強化支援スタッフ)
- 奥隅 信幸 (強化支援スタッフ)
- スタッフ 村田 正洋 (情報・科学スタッフ)
- ドクター 内田 彰子 (医科学部会員)
- 総務 貝塚 直子 (事務局)
- 比嘉健太郎 (事務局)

選手 <エリート男女>

- 渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島)
- 脇本 雄太 (JPCA・JPCU 福井)
- 河端 朋之 (JPCA・JPCU 岡山)
- 雨谷 一樹 (JPCA・JPCU 栃木)
- 一丸 尚伍 (大分・プリヂストン・アンカー)
- 近谷 涼 (富山・三和シャッター工業/プリヂストン・アンカー)
- 原田 裕成 (岡山・愛三工業レーシング)
- 倉林 巧和 (群馬・日本体育大学)
- 新村 穰 (茨城・CS Slinger)
- 小林 泰正 (群馬・日本体育大学)
- 前田佳代乃 (京都)
- 太田 リゆ (静岡・日本競輪学校)
- 中村 妃智 (千葉・日本体育大学/日本写真判定)
- 古山 稀絵 (東京・日本体育大学)
- 梶原 悠未 (埼玉・筑波大学)
- 中村 愛花 (福井・科学技術高校)

<ジュニア男女>

- 中野 慎詞 (岩手・紫波総合高校)
- 山根 慶太 (鳥取・倉吉西高校)
- 梶原 海斗 (福岡・祐誠高校)
- 松田 祥位 (岐阜・岐阜第一高校)
- 佐藤 健 (熊本・九州学院高校)
- 清水 大樹 (神奈川・横浜高校)
- 河野 翔輝 (奈良・榛生昇陽高校)
- 細谷 夢菜 (埼玉・浦和工業高校)
- 松本 詩乃 (東京・昭和第一学園高校)
- 山口 伊吹 (長崎・鹿町工業高校)
- 山上 夢乃 (神奈川・横浜創学館高校)
- 松井 優佳 (鹿児島・南大隅高校)
- 池上あかり (福岡・祐誠高校)

CHAMPIONSHIPS RACES

New Delhi, India



KEIRIN 
この大会は競輪の補助金を受けて派遣されました





エリート男子ケイリン決勝1位の河端

【エリート短距離】

●エリート男子スプリント

エリート男子スプリントは河端と脇本が出場。22名がエントリーした予選で脇本が9番目にスタートし、10秒192で予選3位。最終22番スタートの河端は、10秒185の2位で予選を通過。予選1位はAWANG Mohd Azizulhasni(マレーシア)で10秒105。1/8と1/4決勝は予選下位選手との対戦で順当に勝ち上がり、両名とも1/2決勝へ進む。

1/2決勝、脇本はAWANGと対戦。1本目アウト側からスタートした脇本は、1周目の3コーナーから相手の隙をついてスパート。そのまま残り2周を逃げ切って1回戦を先取した。続く2回戦、イン側スタートの脇本は速い展開のまま先行するも、ゴール前に交わされて2着。3回戦は残り1周でAWANGが先行し、逃げ切って先着。この結果脇本は3-4位決勝へ回る。

1/2決勝2組目で、河端はIM Chaebin(韓国)と対戦。1回戦で河端はイン側スタートし先行したまま逃げ切って先着。2回戦は先行する相手をゴール前で交わして1-2位決勝へ進出。

3-4位決勝はIMの棄権により、脇本の銅メダルが確定した。

1-2位決勝、河端はAWANGと対戦。1回戦、アウト側スタートの河端はゆっくりとした展開のまま、残り1周からスパートして先行するが、4コーナーから交わされて2着。2回戦、先行する河端は後方の相手を牽制しな

から展開が進む。残り1周、河端がペースを上げながら先行するが交わされて2着でゴール。この結果河端の銀メダルが確定した。

●エリート女子スプリント

エリート女子スプリントは前田と太田が出場。エントリー17名で6番目スタートの太田は、11秒552で予選7位。14番目スタートの前田は11秒370で予選3位。11秒009のLEE Wai Sze(香港)が予選1位。

1/8決勝は予選下位選手との対戦で、両名とも順当に勝ち上がり1/4決勝へ進出。

1/4決勝は、前田と太田の対戦。1回戦、アウト側スタートの前田は残り1周からスパートし先行するが、ゴール直前、太田が微差で交わし先着。2回戦は太田がスタート直後より先頭に

立ち、そのまま逃げ切って1着でゴール。太田は1/2決勝へ進出。前田は1/4決勝で敗退した。

1/2決勝で太田はLEE Wai Szeと対戦、ストレートで敗れて3-4位決勝へ。

LEE Hyejin(韓国)と銅メダルを争う3-4位決勝も力及ばず、太田は4位の結果となった。

●エリート男子ケイリン

この種目には渡邊と脇本が出場。第1ラウンドは両名共順当に勝ち上がり、第2ラウンドへ。

第2ラウンド、渡邊は5番手よりスタート。残り2周から先行し、そのまま逃げ切り1着。脇本は3番手からスタートし、残り2周半のバックよりスパートをかけ、そのまま逃げ切って1着。

決勝戦、脇本は2番手、渡邊は5番手からのスタート。残り2周で先行していたマレーシアを交わし、渡邊が先頭でレースをコントロール。脇本は後方から速度を上げ、残り1周で一気に先頭に立ち後続を大きく引き離して1着でゴール。渡邊も続く2着でゴールし、脇本が金メダル、渡邊が銀メダルを獲得した。

●エリート女子ケイリン

前田と太田が出場。第1ラウンド、前田は残り1周で先頭に立ち、そのまま逃げ切り1着。太田は残り2周半から単独で大逃げしたインドを追い残り1周で交わして先行するも、最後の直線で香港と韓国に差されて3着。太田の敗者復活戦は力の差もあり楽に勝ち上がった。

第2ラウンド、太田は4番手からスタート。残り2周でスパートし、そのまま先頭に立つが、韓国、香港、マレー

エリート女子スプリント1/4決勝、日本人対決



シアに交わされ4位。前田は3番手からスタート。残り2周から前田が先頭に立ち、微差で前田が1着でゴールして決勝へ。

7-12位決定戦、太田は6番手スタート。残り2周から先行するも、太田をマークしていた中華台北に交わされ2着でゴール、この種目8位が確定した。

1-6位決定戦、前田は4番手よりスタート。残り2周、中国に続き韓国が仕掛けて韓国選手2名が先行するも、ゴール前にLEE Wai Szeに交わされ香港が金メダル。LEEに続いた前田が3着でゴールして銅メダルを獲得した。

●エリート男子チームスプリント

日本チームは雨谷、河端、渡邊の走順で臨んだ。予選は12ヶ国出場の6組中、第4組のバック側からスタート。予選では電子計時の途中タイムが表示されないなどのトラブルがあったが、日本チームは45秒116で第3位。

3-4位決定戦、日本チームはチャイニーズタイペイとの対戦。1周目から日本チームがリードし、45秒169で銅メダルを獲得した。



エリート男子チームパーシュート3位

【エリート中距離】

2月6日 初日

●男子チームパーシュート予選

新村稔、近谷涼、原田裕成、倉林巧和が出場。スタートから序盤のペースを抑えてしまい、ペースが上がらず4分6秒838の3位で香港との3-4位決定戦にまわる。

●女子チームパーシュート

梶原悠未、中村妃智、古山稀絵、中村愛花が出場。交代のタイミングとペース配分を再確認してスタートする。結果は、目標タイムを上回る4分39秒231の4位で、韓国との3-4位決定戦にまわる。

●女子ポイントレース

梶原が出場。序盤、確実に加点したい3-4回目のポイントで得点できず、暫定2位で終盤へ入る。最終ポイントまでもつれた中国のHUANG Liとの争いだったが、先着した梶原が同点で

優勝。

2月7日 2日目

●男子チームパーシュート

1Kmまでのタイム設定を見直し、予選と同じメンバーでスタート。予選タイムを更新し、4分6秒536で3位となる。尚、1-2位決定戦は4分1秒084で中国が制した。敗れた2位の韓国も4分1秒台をマーク。このタイムは、今シーズンチームが掲げた目標タイムでもあり、アジア全体のレベルが急速に高まってきていると感じた。

●女子チームパーシュート

予選から0.2秒下げたLAPタイムを指示し、こちらも同じメンバーでスタート。各自が力を発揮し、予選タイムを3秒更新する4分36秒1でゴールしたが、対戦の韓国に敗れて4位に終わる。アジア王者の中国が、4分28秒366で香港を下して優勝した。

エリート男子チームスプリント3位



●エリート女子チームスプリント

日本チームは太田、前田の順で臨んだ。予選は9ヶ国出場の5組中、第4組のバック側からスタート、35秒316で第3位。

銅メダルを争う3-4位決定戦ではチャイニーズタイペイとの対戦。日本チームは2周目に競り勝って、銅メダルを獲得した。

●エリート女子500mタイムトライアル

この種目には太田が出場し、午前の予選は6位で通過。午後の決勝は予選のタイムを若干更新するが36秒119で6位の結果であった。金メダルはただ一人34秒台のLEE Wai Szeが獲得した。(宮本 文晴)



エリート女子チームパーシュート4位

エリート男子 1kmTT 4位の一丸

●男子スクラッチ

倉林巧和が出場。序盤は展開に絡めずに我慢の走りが続いたが、終盤タイミングよく1LAPして4位でゴール。優勝は2LAPという力の差を見せた、香港のLEUNG Chun Wing。

2月8日 3日目

●男子オムニアム

小林泰正が出場。最初の種目のスクラッチは、1LAPしたカザフスタンとのゴール勝負に競り勝ち1位でゴール。続く2種目目のTempoレースは、激しい展開の中4位となり、暫定首位で3種目目のエリミネーションに入った。レース終盤、残り3人という場面で競り負けて3位。首位をカザフスタンに譲り、最終種目のポイントレースを4点差の2位でスタートする。小林は序盤から得点を伸ばすことができずに厳しい展開が続く。一度狂った歯車を最後まで立て直すことができず4位に終わった。終始安定した走りで、カザフスタンのMIRALIYEV Sultanmuratが優勝した。

エリート男子オムニアム 4位的小林



●男子ポイントレース

倉林が出場。勝負所で効率よく5点を取ったまま、終盤追い上げてきたチャイニーズ台北とUAEに競り勝って優勝。電光掲示盤に順位が出ないほど荒れた展開を、持ち前の勝負強さで勝ち取った。

●男子1kmタイムトライアル

一丸が出場。今シーズンからこの種目は、同日に予選、決勝を行うというルール変更になり、1発の速さと、短いインターバルでタイムを2本揃える回復力が求められるようになった。トップと0.7秒差、1分3秒990の5位で予選を通過し、約4時間後の決勝を1分4秒180で走り、一つ順位を上げ4位となった。予選2位(1分3秒129)だったイランのDANESHVAR KHORRAM



Mohammadが逆転優勝をした。

●女子個人パーシュート予選

梶原が出場。3分40秒760で予選を1位で通過し、韓国との1-2位決定戦に進む。決定戦は終盤にペースを落としてしまい、3分42秒103の2位に終わった。優勝は4分41秒338で韓国のLEE Jumi。

2月9日 4日目

エリート女子IP 2位の梶原



●女子オムニアム

連戦の梶原が出場。最初の種目スクラッチは、周りに合わせたスローペースになってしまい集団でのゴール勝負になる。残り1周でスパートするも、香港のスプリンターに届かず2位でゴール。2種目目のTempoレースは、梶原は中国、チャイニーズ台北、韓国と逃げて1LAPするが、逃げメンバーから遅れた韓国が先頭になり、韓国に大量の点が入ってしまう。その結果メイン集団に早く追い付きすぎた梶原は2位に終わる。だが梶原は続くエリミネーションを危なげなく1位で終え、首位のまま最終ポイントレースに臨む。初日のポイントレースの反省から先手を常に取り、梶原は一度も首位を明け渡さずに優勝した。

●男子個人パーシュート予選

近谷が出場。予選は4分32秒697と全体の4位で3-4位決定戦にまわる。続く決定戦では、中盤から設定タイムをキープできず、4分32秒834の4位に終わった。レースは4分24秒314で韓国のPARK Sanghoonが優勝した。

エリート女子スクラッチ 8位の古山



●女子スクラッチ

古山が出場。初出場のプレッシャーを跳ね除け序盤から積極的に仕掛けたが、最後は走力が足りず遅れてしまい8位に終わる。優勝は残り2周から先行した中国のHUANG Li。

2月10日 最終日

●男子マディソン

小林、新村が出場。マディソンは今シーズンからポイント周回が20周毎から10周毎に、最終ポイントが5点から倍の10点に、そして獲得点数より周回数が優位だったルールも、ポイントレースと同様に1LAP20点に変更され、単純に獲得点数で競うルールに変更になった。スタートから序盤は得点に絡めず日本は我慢の展開が続いたが、中盤以降コンビネーションが噛み合い3位に浮上。最後は追いつがる香港を1点差で振り切り、69点の3位でゴールした。レースは、カザフスタンに競り勝った韓国が86点で優勝した。

●女子マディソン

梶原と古山が出場した女子マディソンは、香港、韓国、イラン、日本の4カ国が出場。レース展開は、ワールドカップに参戦している香港を中心に、韓国との三つ巴の戦いが予想された。香港、韓国がレースをリードし日本も何とか食らいつくが、中盤以降、地力で勝る香港が1LAPしてリードを広げていった。終盤、韓国との2位争いも徐々に離されてしまい、日本は3位でレースを終えた。優勝は3LAP、115点を獲得した香港。

(中距離コーチ 飯島 誠)

エリート女子マディソン 3位の日本チーム





ジュニア男子スプリント決勝、左が優勝の梶原

[ジュニア]

昨年10月から2017選手強化事業として選手を公募、トレーニングキャンプと選手選考には男子6名、女子6名計12名が参加した。第3回トレーニングキャンプでは国際大会を想定し、会場までの移動、補食昼食、遅い時間帯のレースや夕食を体験させた。出場を想定される種目は1月キャンプで知らせ、最終種目は2日前に発表した。ジュニアで男女オムニアムの種目追加があり、参加選手の多くが高校2年生で、レース経験と種目経験も少ない。また、選手にとって劣悪環境下で体調を崩す選手もいる中で、大会参加は多くの課題を与えてくれた。

競技5日間9時30分から午前中のセッションと午後は13時30分または14時30分から行われた。選手団は指定宿舎からクラクションが鳴り響く、渋滞と排気ガスで覆われた

ニューデリーの町のシャトルバスで移動する。大会初日に団体種目の予選が組まれており、更に女子オムニアムIからIVファイナルまでが行われた。エリート種目もある中で、器材(前後ディスクやローラー、エアロヘルメットなど)の準備も忙しい。

●チームパーシュート

女子:細谷夢菜(浦和工業)松本詩乃(昭和第一)松井優佳(南大隅)山口伊吹(鹿町工業)で臨み、使用ギアを52×15を中心に設定し予選4分55秒853で2位。金メダルをかけた対戦相手、韓国とのタイム差は5秒ある。翌日に行われた順位決定で4分55秒022まで伸ばした日本チームだが、韓国チームも4分42秒台と力の差を見せつけられた。

男子:河野翔輝(榛生昇陽)佐藤健(九州学院)清水大樹(横浜)中野慎詞(紫波総合)が出走し、男子ギアは52×14を基本とした。予選は4分21秒

3と0.1秒差でカザフスタンに惜敗し3位に終わる。中野は同セッション中にチームスプリント予選を控えていたが、順位決定で香港チームに勝利し銅メダルを獲得した。

●チームスプリント

女子:山口と松本で出場したが、6位敗退で終わる。細谷の起用も考えたが、オムニアム直後の出走は無理があった。男子:中野・梶原海斗(祐誠)山根慶太(倉吉西)が出演。中野はチームパーシュート出走の影響が不安視されていたが、それぞれ46×13、48×13、48×13で予選2位通過。スタートでの山根の遅れから決勝では47×13へギアを変更し、46秒936で予選1位の韓国を逆転して金メダルを飾った。この記録は13年ぶりの更新である。



ジュニア女子オムニアム優勝の細谷

●オムニアム

女子:細谷が出場しスクラッチ1位、テンポ2位、エリミ1位であったが最後ポイントレースで得点を伸ばせず、銅メダルに終わった。レース経験を考えると男子同様、国内ジュニアでもこの種目導入が急がれると思われる。

男子:12名が出場し佐藤はスクラッチ8位、テンポ2位、エリミ2位とメダルに期待がかかる。最終ポイントレースでは序盤、カザフスタン選手が佐藤の前に割り込む形で前輪接触し、後



ジュニア女子チームパーシュート2位



ジュニア男子チームパーシュート3位

続1名選手とともに落車してしまった。代車に乗り換え健闘したが総合7位で終わった。

●ポイントレース

女子:決勝のみ10km、8名で行われ日本からは松井の出場である。1回目5点2回目2点と全てのポイントに絡んだが、カザフスタンと韓国選手にLAPを許してしまい、最終10点を獲得できなかった。



ジュニア女子ポイントレース3位の松井

得するも3位銅メダルで終わった。

男子:佐藤が出場した決勝は15kmで行われ、けん制場面もあったが果敢なアタック合戦の展開だった。韓国選手が19点で優勝、タイペイ、タイと続



ジュニア男子ポイントレース4位の佐藤

き佐藤は7点4位と惜敗してしまった。

●スクラッチ

女子:7.5kmで行われ、石上が出場した。終始けん制とアタックの掛け合いの中ゴール勝負となり、韓国、カザフスタン、マレーシアに続いて4位に終わり悔し涙を流した。

男子:決勝のみ10kmで行われ14名が出走、清水が出場した。女子同様、けん制からアタックの掛け合いが続き、清水を含む集団はイラン選手にLAPされてしまう。終盤スピードが上がる中、集団でゴールして7位と敗退した。

●個人パーシュート

女子:当初出場予定の池上が体調不良。ギリギリまで様子を見たが改善できず、急きょ松井が出場した。予選は1kmを1分17秒で通過、2分35秒691の3位通過で順位決定戦へ。予算1位は韓国選手の2分29秒であった。順位決定戦ではカザフスタン選手に勝ち、銅メダルを獲得した。

男子:河野が予選3位で順位決定戦に。チャイニーズタイペイ選手に2kmまでリードを許すが、後半逆転して銅メダルを獲得した。

●ケイリン

女子:細谷は予選1組の1番を抽選で引く。残り3周でペーサー退避後、韓国とカザフの2名が細谷の前に出て3番手で残り2周を迎える。残り1週のバックで細谷がまくり1着。だが追越し時の走行にワーニングが付けられてしまう。予選3組に出場した山口は5名でのレースとなった。5番手から残り2周でトップに立ち、そのまま逃げ切って1着。2回戦は細谷4着、山口2着となる。山口は1~6位決定戦で4着となりメダルを逃したが、思い切りの良い積極姿勢は評価できる。

男子:初日、チームスプリントで金メダルを獲得した梶原と中野は1回戦をそれぞれ快勝して2回戦へ進んだ。しかし、それぞれ2組と3組であったため、2回戦では同組で両名が当たってしまう。2回戦では梶原が1着、スピードが上がって常に外を回ってしまった中野は4着で7~12位決定戦に回るも、力を発揮し1着7位となる。1~6位決定戦梶原はギアを48×13へ落とし、3番スタート。新ルールによりスタートの取り合いもない番号順に周回を重ねたバイク退避後、後続3名が梶原を超越し6番手に下がるが1.5周前、素晴らしいダッシュで全員をかわし残り1周をトップ通過。後続を引き離していくスピードは誰も追従できないまま見事金メダルを獲得した。



ジュニア男子ケイリン2回戦、1位が梶原、左端中野は4位

●スプリント

女子:予選を松本12秒331、細谷12秒334で通過した。中国11秒632がトップタイムである。両名とも1/8を勝ち上がり、1/4決勝は新ルールにより5位通過の細谷が1位中国と対戦し敗退。松本はチャイニーズタイペイ選手と接戦の末1/2決勝へ上がったが3/4位決定戦で敗れ4位で終わった。

男子:中野予選1位10秒753、梶原10秒792、ギアは52×14。以下10秒台が5名と、タイムが接近している中での対戦となる。両名とも勝ち上がり、決勝戦は日本人同士の対戦となった。両名とも力は互角であったが、僅差で梶原が競り勝ち3個目の金メダルを手にした。

●タイムトライアル

新ルールにより同日に予選が行われ、上位8名で決勝を行う。

女子:500mに松本が出場し、37秒892で6位。



ジュニア女子500mTT6位の松本

男子:山根は52×15ギアで1分06秒044と好記録で3位通過、決勝でも1分06秒786で銅メダルを獲得した。優勝は男女とも韓国選手、2位もチャイニーズタイペイ選手であった。

(ジュニアコーチ 折本裕樹)

【競技結果】

第37回アジア自転車競技選手権大会
(2017/2/6-10 インド・ニューデリー)

<男子>

スプリント

- 1 AWANG Mohd Azizulhasni MAS
- 2 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 3 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井



1km タイムトライアル

- 1 DANESHVAR KHORRAM Mohammad IRI 1:03.129
- 2 HSIAO Shih Hsin TPE 1:03.651
- 3 NA Junggyu KOR 1:03.669
- 4 一丸 尚伍 大分 BS アンカー 1:04.180

ケリツ

- 1 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井
- 2 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 3 SAHROM Muhammad Shah Firdaus MAS



4km 個人パシユート

- 1 PARK Sanghoon KOR 4:24.314
- 2 ZAKHAROV Artyom KAZ 4:26.670
- 3 LI Wen Chao TPE 4:31.074
- 4 近谷 涼 富山 三和 S/BS 4:32.834

スクラッチ (15km)

- 1 LEUNG Chun Wing HKG
- 2 RAJABLOU Mohammad IRI
- 3 GAINEYEV Robert KAZ
- 4 倉林 巧和 群馬 日本体育大学

ポイントレース (30km)

- 1 倉林 巧和 群馬 日本体育大学 48p
- 2 CHEN Chien Chou TPE 46p
- 3 MIRZA ALHAMMADI Yousif UAE 44p



チーム

- 1 MIRALIYEV Sultanmurat KAZ 132p
- 2 LEUNG Chun Wing HKG 129p
- 3 KIM Okcheol KOR 120p
- 4 小林 泰正 群馬 日本体育大学 118p

マシツ

- 1 大韓民国 86p
- 2 カザフスタン 80p
- 3 日本 小林・新村 69p



チームスプリント

- 1 中華人民共和国 44.913
- 2 イラン 45.765
- 3 日本 渡邊・雨谷・河端 45.169



チームパシユート

- 1 中華人民共和国 4:01.043
- 2 大韓民国 4:01.835
- 3 日本 倉林・近谷・新村・原田 4:06.536



<女子>

500m タイムトライアル

- 1 LEE Wai Sze HKG 34.204
- 2 CHO Sunyoung KOR 35.224
- 3 LI XUE Mei CHN 35.271
- 6 太田 りゆ 静岡 競輪学校 36.119

スプリント

- 1 LEE Wai Sze HKG
- 2 KIM Wongyeong KOR
- 3 LEE Hyejin KOR
- 4 太田 りゆ 静岡 日本競輪学校
- 6 前田佳代乃 京都

ケリツ

- 1 LEE Wai Sze HKG
- 2 LEE Hyejin KOR
- 3 前田佳代乃 京都



- 8 太田 りゆ 静岡 日本競輪学校

3km 個人パシユート

- 1 LEE Jumi KOR 3:41.338
- 2 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 3:42.103
- 3 HUANG DONG Yan CHN 3:43.586



スクラッチ (10km)

- 1 HUANG Li CHN
- 2 KANG Hyunkyung KOR
- 3 DIAO Xiaojuan HKG
- 8 古山 稀絵 東京 日本体育大学

ポイントレース (20km)

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 24p
- 2 HUANG Li CHN 24p
- 3 KIM Yuri KOR 17p



チーム

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 147p
- 2 LUO Xiao Ling CHN 139p
- 3 MENG Zhaojuan HKG 124p



マディソン

- 1 ホンコンチャイ 115p
- 2 大韓民国 40p
- 3 日本 梶原・古山 28p



チームスプリント

- 1 大韓民国 33.594
- 2 ホンコンチャイ 35.567
- 3 日本 前田・太田 35.032



チームパシージュート

- 1 中華人民共和国 4:28.366
- 2 ホンコンチャイ 4:35.270
- 3 大韓民国 4:31.159
- 4 日本 古山・中村愛・中村紀・梶原 4:32.943

<ジュニア男子>

スプリント

- 1 梶原 海斗 福岡 祐誠高校
- 2 中野 慎詞 岩手 紫波総合高校
- 3 PARK Hyunoh KOR



1km タイムトライアル

- 1 PARK Hyunoh KOR 1:05.207
- 2 ZENG Jhieh Hong TPE 1:06.322
- 3 山根 慶太 鳥取 倉吉西高 1:06.786



ケリソ

- 1 梶原 海斗 福岡 祐誠高校
- 2 PARK Hyunoh KOR
- 3 LEUNG Chun Long HKG



- 7 中野 慎詞 岩手 紫波総合高校

3km 個人パシージュート

- 1 SHTEIN logan KAZ 3:23.644
- 2 JOO Mideum KOR 3:26.251
- 3 河野 翔輝 奈良 榛生昇陽 3:30.083



スクラッチ (10km)

- 1 BAGHERPOUR Kasra IRI
- 2 CHI SON leong MAC
- 3 KIM Euro KOR
- 9 清水 大樹 神奈川 横浜高校

ポイントレース (15km)

- 1 KIM Euro KOR 19p
- 2 HUANG Chien Chang TPE 10p
- 3 CHAIYASOMBAT Thanakhan THA 8p
- 4 佐藤 健 熊本 九州学院高校 7p

チームタイム

- 1 SHTEIN logan KAZ 137p
- 2 JAMSHIDIAN GHALEHSEFIDI Amirtossein IRI 128p
- 3 ROSLI Muhammad Nur Aiman MAS 111p
- 7 佐藤 健 熊本 九州学院高校 82p

チームスプリント

- 1 日本 中野・山根・梶原 46.936
- 2 大韓民国 47.244
- 3 ガスタン 47.852



チームパシージュート

- 1 ガスタン 4:17.561
- 2 大韓民国 4:17.714
- 3 日本 中野・佐藤・清水・河野 4:22.003



<ジュニア女子>

500m タイムトライアル

- 1 SHEN Chao Yue CHN 35.291
- 2 JEONG Seolhwa KOR 36.350
- 3 REJI Aleena IND 37.439
- 6 松本 詩乃 東京 昭和第一学 37.894

スプリント

- 1 SHEN Chao Yue CHN
- 2 HU Jia Fang CHN
- 3 JEONG Seolhwa KOR
- 4 松本 詩乃 東京 昭和第一学園高校
- 5 細谷 夢菜 埼玉 浦和工業高校

2km 個人パシージュート

- 1 KIM Hyesu KOR 2:28.890
- 2 BATRIYA Chaniporn THA 2:36.500
- 3 松井 優佳 鹿児島 南大隅高 2:36.624



ケリン

- 1 SHEN Chao Yue CHN
- 2 SHAPOVALOVA Anastasiya KAZ
- 3 HU Jia Fang CHN
- 4 山口 伊吹 長崎 鹿町工業高校
- 7 細谷 夢菜 埼玉 浦和工業高校

スクラッチ (7.5km)

- 1 KIM Hyesu KOR
- 2 PACHSHENKO Svetlana KAZ
- 3 AU Hoi Ian MAC
- 4 石上 夢乃 神奈川 横浜創学館高校

ポイントレース (10km)

- 1 MYRXINA Veronika KAZ 28p
- 2 KOH Haneul KOR 28p
- 3 松井 優佳 鹿児島 南大隅高校 18p



オムニウム

- 1 PACHSHENKO Svetlana KAZ 145p
- 2 KIM Minhwa KOR 144p
- 3 細谷 夢菜 埼玉 浦和工業高校 137p



チームスプリント

- 1 中華人民共和国 35.819
- 2 チェイニーズタイハイ 36.623
- 3 インド 36.677
- 6 日本 松本・山口 38.004

チームパシュート

- 1 大韓民国 4:42.823
- 2 日本 細谷・松本・山口・松井 4:52.022
- 3 カザフスタン 追抜勝

2017 UCI パラサイクリングトラック
世界選手権大会

相園 銀メダル、川本 銅メダル!

2020 東京に向けた新しいチームとしての初の国際大会であったが若手の選手が伸び伸びとした走りでメダルを獲得することができた。石井雅史は選手兼コーチとして選手により近い立場で指示を出し、一人一人に適したコーチングができた。海外チームも2020に向け強化をスタートしており、この世界のスピードに遅れないように強化を行っていききたい。(権丈 泰巳)

【競技結果】

2017年UCIパラサイクリングトラック世界選手権大会
(2017/3/2-3/5 アメリカ・ロサンゼルス)

MC4 1km タイムトライアル

- 1 CUNDY Jody GBR 1:05.614
- 2 METELKA Jozef SLV 1:06.149
- 3 BRIDGWOOD Kyle AUS 1:09.177
- 5 石井 雅史 東京 みらい創造1:10.021

MC2 1km タイムトライアル

- 1 CHERNOVE Tristen CAN 1:15.005
- 2 相園健太郎 福岡 福岡大学 1:17.612
- 3 KOBLASA Ivo CZE 1:17.912



- 6 川本 翔大 広島大和産業 1:19.381

MC2 3km 個人パシュート

- 1 CHERNOVE Tristen CAN 3:47.424
- 2 KEITH Aaron USA 3:54.304
- 3 川本 翔大 広島大和産業 3:56.662



- 7 相園健太郎 福岡 福岡大学 4:07.739

Mixed チームスプリント

- 1 アメリカ 50.654
- 2 スペイン 52.180
- 3 ロシア 52.345
- 7 日本 相園・石井・川本 59.317

2017年UCIパラサイクリングトラック世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2017年UCIパラサイクリングトラック世界選手権大会

大会日程 2017年3月2日～5日

派遣日程 2017年2月26日～3月7日

開催場所 アメリカ・ロサンゼルス

代表選手団

ヘッドコーチ 権丈 泰巳 (JPCF 強化委員長)

メカニック 齊藤 健吾 (JPCF 強化支援スタッフ)

トレーナー 小林 敦郎 (JPCF 強化支援スタッフ)

栄養士 川上 絵里 (JPCF 強化支援スタッフ)

競速スタッフ 小坂橋彩子 (JPCF 強化支援スタッフ)

選手 石井 雅史 (東京・公益財団法人藤沢市みらい創造財団)

相園健太郎 (福岡・福岡大学)・川本 翔大 (広島・大和産業株式会社)

2017年UCIシクロクロス世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2017年UCIシクロクロス世界選手権大会

大会日程 2017年1月26日～29日

開催場所 ルクセンブルク大公国・ピール

代表選手団

監督 澤田 雄一 (JCF 強化支援スタッフ)

総務 竹之内脩兵 (JCF 強化支援スタッフ)

メカニック 石垣 鉄也・小林 輝紀・村上 大輔・鬼頭 拓也 (以上 JCF 強化支援スタッフ)

選手 沢田 時 (滋賀)・前田 公平 (東京)・小坂 光 (長野)

織田 聖 (埼玉)・村上功太郎 (愛媛)・武田 和佳 (埼玉)

今井 美穂 (群馬)・與那嶺恵理 (茨城)・坂口 聖香 (兵庫)

2016-17 UCIトラックワールドカップ第3戦



河端がケイリン4位



【競技結果】

2016-2017UCIトラックワールドカップ大会第3戦
(2017/2/17-19 コロンビア・カリ)

男子スプリント

- DMITRIEV Denis RUS
- NIEDERLAG Max GER
- YAKUSHEVSKIY Pavel RUS
- 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山 DNS

男子ケイリン

- PUERTA ZAPATA Fabian Hernando COL
- PERVIS Francois FRA
- BABEK Tomas CZE

4 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山

男子4kmチームタイム・シュート

- デンマーク DEN 3:59.475
- Lokosphinx LOK 4:01.068
- ロシア RUS 3:59.066
- 日本 近谷・荒井・一丸・沢田 4:09.001

男子ポイントレース

- DOWNEY Mark IRL 35p
- LARSEN Niklas DEN 25p
- GHYS Robbe BEL 16p
- 18 近谷 涼 富山 三和シャッター /BS -20p

男子ホムニアム

- WELSFORD Sam AUS 128p

- DE VYLDER Lindsay BEL 107p
- VON FOLSACH Casper DEN 104p
- 今村 駿介 福岡 中央大学 51p

女子スプリント

- VOGEL Kristina GER
- VOINOVA Anastasiia GAZ
- SHMELEVA Daria GAZ
- 15 前田佳代乃 京都

女子ケイリン

- VOGEL Kristina GER
- BAYONA PINEDA Martha COL
- DEGRENDELE Nicky BEL
- 12 前田佳代乃 京都

女子スクラッチ

- HAMMER Sarah USA
- ROMANYUTA Evgeniya RUS
- GURLEY Lydia IRL
- 17 鈴木 奈央 JPCA JPCU 静岡 -1

女子ホムニアム

- KOPECKY Lotte BEL 128p
- NELSON Emily GBR 118p
- BARBIERI Rachele ITA 114p
- 14 鈴木 奈央 JPCA JPCU 静岡 46p

女子4kmチームタイム・シュート

- オーストラリア 4:25.821
- イタリア 4:33.195
- カタール 4:25.789
- 13 日本 鈴木・古山・中村愛・中村紀 4:50.924

2016-17 UCIトラックワールドカップ第4戦



鈴木奈央がスクラッチ5位



【競技結果】

2016-2017UCIトラックワールドカップ大会第4戦
(2017/2/24-26 アメリカ・ロサンゼルス)

男子スプリント

- DMITRIEV Denis GAZ
- NIEDERLAG Max GER
- WEBSTER Sam NZL
- 14 脇本 雄太 JPCA JPCU 福井

男子ケイリン

- PUERTA ZAPATA Fabian Hernando COL
- BARRETTE Hugo CAN
- SAHROM Muhammad Shah Firdaus ISN
- 6 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島

25 新田 祐大 DRS

男子スクラッチ

- KARALIOK Yauheni BLR
- DENIS Thomas FRA
- SEXTON Thomas NZL
- 19 倉林 巧和 群馬 日本体育大学大学院

男子ホムニアム

- SAJNOK Szymon POL 121p
- STEWART Campbell NZL 115p
- PARK Sanghoon KOR 115p
- 12 今村 駿介 福岡 中央大学 56p

男子マディソン(30km)

- アイルランド 57p

- デンマーク 45p
- ニュージーランド 44p
- 日本 今村・倉林 DNF

男子チームスプリント

- ニュージーランド 43.710
- ドイツ 43.974
- ポースランド 44.184
- 8 日本 長迫・脇本・渡邊 45.061
- 9 Dream Seeker 新田・PERKINS S.・和田 45.324

女子スプリント

- VOGEL Kristina GER
- BASOVA Liubov UKR
- VOINOVA Anastasiia GAZ
- 19 前田佳代乃 京都

女子ケイリン

- VOGEL Kristina GER
- BAYONA PINEDA Martha COL
- HANSEN Natasha NZL
- 12 前田佳代乃 京都

女子スクラッチ

- KLIMCHENKO Tetyana UKR
- DUEHRING Jasmin CAN
- BARBER Elinor GBR
- 5 鈴木 奈央 JPCA JPCU 静岡 -1lap

女子4kmチームタイム・シュート

- アメリカ 4:19.990
- ニュージーランド 4:24.619
- カタール 4:25.487
- 9 日本 前田・中村愛・中村紀・鈴木 4:47.732

男子エリート・ロードレースランキング

2017/3/2

順位	名前	所属	合計	T0J	T0J	T0J	T0J	T0J	熊野	熊野	熊野	全日本	全日本	T北海道	T北海道	T北海道	T北海道	全日本	世界選	Japan	ケート	7/7選	7/7選
				総合	1 St	2 St	7 St	8 St	総合	1 St	3 St	TT	ロード	総合	2 St	3 St	4 St	全日本	ロード	Cup	沖繩	TT	ロード
				5/29-6/5	2016 5/29	2016 5/30	2016 6/4	2016 6/5	6/16-19	2016 6/17	2016 6/19	2016 6/24	2016 6/26	9/1-3	2016 9/1	2016 9/2	2016 9/3	2016 10/9	2016 10/16	2016 10/23	2016 11/13	2017 2/27	2017 3/2
1	増田 成幸	栃木	162p	20	3							20	25	40	8	1			5	40			
2	新城 幸也	JPCA	149p	5			14												20	40			70
3	別府 史之	JPCA	129p																	3			125
4	西園 良太	鹿児島	109p	3							30	55					1		5	5	10		
5	初山 翔	神奈川	78p	3								70							5				
6	岡本 隼	東京	70p																				70
7	木村 圭佑	滋賀	41p										1	40									
8	小野寺 玲	栃木	40p																			25	15
9	石橋 学	青森	33p									3	30										
10	内間 康平	沖縄	31p					3	3												25		
11	中根 英登	愛知	26p											20		1			5				
12	佐野 淳哉	静岡	25p									25											
13	鈴木 謙	栃木	24p											3	1				5				
14	鈴木 龍	宮城	21p							1													
15	伊藤 雅和	愛知	18p	3					15														
16	雨澤 毅明	栃木	16p									1							5	10			
17	湊 諒	青森	15p																		15		
17	野中 竜馬	広島	15p									15											
19	阿部 嵩之	栃木	10p									10											
19	吉岡 直哉	京都	10p											10									
19	平井 栄一	神奈川	10p										10										
22	畑中 勇介	東京	8p																	5	3		
23	大久保 陣	鹿児島	7p										7										
24	入部 正太郎	奈良	6p						3												3		
26	橋 大志	東京	6p									5											
26	土井 雪広	山形	5p										5										
27	石上 優大	神奈川	4p									1								3			
28	吉田 隼人	奈良	3p																		3		
28	窪木 一茂	和歌山	3p			3																	
28	山下 貴宏	兵庫	3p										3										
28	早川 朋宏	愛知	3p	3																			
28	堀 孝明	栃木	3p	3																			
33	橋本 英也	岐阜	1p									1											
33	中村 龍太郎	千葉	1p									1											
33	武井 亨介	茨城	1p									1											

今後の大会予定

期日	大会名	種目	場所
3月31日 ~ 2日	ツール・ド・とちぎ	RR	栃木県
4月8日 ~ 9日	菖蒲谷クロスカントリー XCO CJ2	MTB	兵庫県・たつの市
4月8日 ~ 9日	第42回チャレンジサイクルロードレース大会	RR	静岡県・日本CSC
4月12日 ~ 16日	UCI世界選手権大会-トラック	TR	ホンコンチャイナ
4月22日 ~ 23日	Coupe du Japon 八幡浜国際クロスカントリー UCI-C1	MTB	愛媛県・八幡浜市
4月29日 ~ 30日	全日本選手権自転車競技大会-トライアル	TRIAL	長野県・佐久市
5月4日 ~ 7日	Coupe du Japon びわこ高島 STAGE XCO/DHI	MTB	滋賀県・高島市
5月13日 ~ 14日	全日本選手権自転車競技大会-トラック	TR	宮城県・大和町
5月13日 ~ 14日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・トラック	PARA	宮城県・大和町
5月13日 ~ 14日	アジア・マウンテンバイク選手権大会	MTB	中国・シュエンション
5月21日	Coupe du Japon 勢和多気国際 XCO UCI-C3	MTB	三重県・多気町
5月21日	堺国際クリテリウム	RR	大阪府・堺市
5月21日 ~ 28日	ツアー・オブ・ジャパン	RR	大阪~東京
5月27日 ~ 28日	Coupe du Japon 富士見パノラマ XCO/DHI	MTB	長野県・富士見町
5月27日	第56回全日本学生選手権 チーム・ロード・タイムトライアル大会	RR	埼玉県・加須市/羽生市
5月28日	全日本学生選手権 第28回全日本学生個人ロードTT大会	RR	埼玉県・加須市/羽生市
5月29日	第64回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース	TR	和歌山県・和歌山市
6月1日 ~ 4日	ツール・ド・熊野	RR	和歌山県・新宮市他
6月10日 ~ 11日	Coupe du Japon MTB ISHIKAWA/白山-里野温泉 XCO	MTB	石川県・白山市
6月10日 ~ 11日	第33回 全日本学生選手権個人ロードレース大会	RR	岩手県・紫波町
6月17日 ~ 18日	クロスカントリー・サーキットレース&エリミネーター in 前橋	MTB	群馬県・前橋市
6月23日	全日本選手権自転車競技大会-ロード・タイムトライアル	RR	青森県・階上町
6月23日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・ロード	PARA	青森県・階上町
6月24日 ~ 25日	全日本選手権自転車競技大会-ロードレース ME,WE,U23	RR	青森県・階上町
6月24日 ~ 25日	妙高杉ノ原 STAGE XCO CJ2	MTB	新潟県・妙高市
6月24日 ~ 25日	UCI世界選手権大会-MTB -マスターズ	MTB	アンドラ・バルノード
6月24日 ~ 25日	UCI世界選手権大会-MTB -マラソン	MTB	ドイツ・ゾンゲン

連盟の動き (12月下旬～3月中旬)

12月21日 第3回常務理事会	於：東京・自転車総合ビル 602会議室
2月6日 第6回選手強化委員会	於：東京・自転車総合ビル 602会議室
第6回競技運営委員会	於：東京・自転車総合ビル 601会議室
第5回理事会	於：東京・自転車総合ビル 601会議室
21日 第3回総務委員会	於：東京・自転車総合ビル 602会議室
22日 第4回常務理事会	於：東京・自転車総合ビル 701会議室
27日 第6回理事会	於：東京・自転車総合ビル 601会議室
3月14日 第2回評議員会	於：東京・自転車総合ビル 701会議室

'16-'17 UCIトラックワールドカップ大会第3戦 日本代表選手団

大会名 '16-'17 UCIトラックワールドカップ大会第3戦
大会日程 2017年2月17日～19日
派遣日程 2017年2月12日～20日
開催場所 コロンビア・カリ
代表選手団

コーチ ブノア・ヴェトゥゥ(短距離ヘッドコーチ)
飯島 誠(中距離ヘッドコーチ)

メカニック 斉藤 健吾(強化支援スタッフ)
マッサー 柳 浩史(強化支援スタッフ)
スタッフ 村田 正洋(情報・科学スタッフ)
通訳 酒見 由里

選手 河端 朋之(JPCA・JPCU 岡山)
一丸 尚伍(大分・プリチストン・アンカー)
近谷 涼(富山・三和シャッター工業/プリチストン・アンカー)
荒井 佑太(宮城・法政大学)
今村 駿介(福岡・中央大学)
沢田桂太郎(宮城・日本大学)
前田佳代乃(京都)
中村 妃智(千葉・日本体育大学/日本写真判定)
鈴木 奈央(JPCA・JPCU 静岡)
古山 稀絵(東京・日本体育大学)
中村 愛花(福井・科学技術高校)

'16-'17 UCIトラックワールドカップ大会第4戦 日本代表選手団

大会名 '16-'17 UCIトラックワールドカップ大会第4戦
大会日程 2017年2月25日～26日
派遣日程 2017年2月20日～28日
開催場所 アメリカ・ロサンゼルス
代表選手団

コーチ ブノア・ヴェトゥゥ(短距離ヘッドコーチ)
ジェイソン・ニブレット(短距離コーチ)
飯島 誠(中距離ヘッドコーチ)

メカニック 森 昭雄(強化支援スタッフ)
斉藤 健吾(強化支援スタッフ)
マッサー 中山 真臣(強化支援スタッフ)
奥隅 信幸(強化支援スタッフ)
スタッフ 村田 正洋(情報・科学スタッフ)
通訳 酒見 由里

選手 河端 朋之(JPCA・JPCU 岡山)
脇本 雄太(JPCA・JPCU 福井)
長迫 吉拓(岡山)
倉林 巧和(群馬・日本体育大学大学院)
今村 駿介(福岡・中央大学)
前田佳代乃(京都)
中村 妃智(千葉・日本体育大学/日本写真判定)
鈴木 奈央(JPCA・JPCU 静岡)
古山 稀絵(東京・日本体育大学)
中村 愛花(福井・科学技術高校)

新しい翼で、世界の空へ。

member of 



JAPAN AIRLINES

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

2016 サイクルワールドカップファイナル大会 (2016/11/8-12 スイス・ゲインタークトール)

- 1 RC Höchst 1
Schnetzer, Patrick / Bröll, Markus
- 2 RC Höchst 2
König, Simon / Fischer Florian
- 3 RC Winterthur
Waldispühl, Marcel / Jiricek, Peter
- 10 RSV Osaka
村上裕亮 (大阪) / 岡嶋紘次 (広島)

2017 シクロクロス世界選手権大会 (2017/1/26-29 ルクセンブルク・ヒール)

男子U23 (24.67km)

- 1 VAN AERT Wout BEL 1:02:08
- 2 VAN DER POEL Mathieu NED +0:44
- 3 PAUWELS Kevin BEL +2:09
- 51 小坂 光 JPN 長野 -3laps
- 53 前田 公平 JPN 東京 -4laps
- 沢田 時 JPN 滋賀 DNF

女子U23 (15.55km)

- 1 CANT Sanne BEL 43:06
- 2 VOS Marianne NED +0:01
- 3 NASH Katerina CZE +0:21
- 29 與那嶺恵理 JPN 茨城 +8:15
- 30 今井 美穂 JPN 群馬 -1lap
- 35 武田 和佳 JPN 埼玉 -1lap

男子U23 (21.63km)

- 1 NIEUWENHUIS Joris NED 53:58
- 2 ORTS LLORET Felipe ESP +1:23
- 3 WOUTERS Sieben NED +1:29
- 49 織田 聖 JPN 埼玉 -3laps

女子U23 (15.55km)

- 1 WORST Annemarie NED 43:47
- 2 NOBLE Ellen USA +0:10
- 3 RICHARDS Evie GBR +0:26
- 28 坂口 聖香 JPN 兵庫 +6:15

男子ジュニア (15.55km)

- 1 PIDCOCK Thomas GBR 41:24
- 2 TULETT Daniel GBR +0:38
- 3 TURNER Ben GBR +0:44
- 30 村上功太郎 JPN 愛媛 +5:18

—地区選手権大会—

第43回北日本地区選手権自転車競技大会 (2016/10/26 青森競輪場 400m)

スプリント

- 1 渡邊 一成 福島
- 2 新山 響平 青森
- 3 真船圭一郎 福島

ケリ

- 1 伏見 俊昭 福島
- 2 安部 貴之 宮城
- 3 佐藤慎太郎 福島

1kmタイムトライアル

- 1 坂本 貴史 青森 1:04.415
- 2 早坂 秀悟 宮城 1:04.836

- 3 新田 祐大 福島 1:05.320

4km個人ハーフシュート

- 1 渡辺 正光 福島 4:50.31
- 2 佐藤 朋也 秋田 5:00.55
- 3 奈良 基 宮城 5:04.86

4kmチームハーフシュート

- 1 青森 坂本^貴・守澤^剛・坂本^剛・新山 4:30.14
- 2 福島 房州^正・渡辺^正・佐藤^剛・須永 4:31.91
- 3 宮城 竹山^和・和田^三・三浦^阿・阿部^拓 5:26.66

リミネーション

- 1 根本 哲吏 秋田
- 2 佐藤 朋也 秋田
- 3 和田 圭 宮城

チームスプリント

- 1 宮城 早坂^力・阿部^力・菅田 1:15.52
- 2 青森 高橋^博・佐藤^博・竹村 1:16.18
- 3 福島 伏見^慎・佐藤^慎・小松崎 1:16.33

第43回関東地区選手権自転車競技大会 (2016/11/8 ぐりん-ドム前橋 335m)

スプリント

- 1 鈴木謙太郎 茨城
- 2 山口 貴弘 栃木
- 3 馬場 和広 埼玉

ケリ

- 1 木暮 安由 群馬
- 2 天田 裕輝 群馬
- 3 山田 義彦 埼玉

1kmタイムトライアル

- 1 末木 浩二 山梨 1:05.513
- 2 稲村 成浩 群馬 1:05.726
- 3 吉澤 純平 茨城 1:06.519

4km個人ハーフシュート

- 1 須賀 和彦 茨城 4:53.141
- 2 石川 雅望 群馬 4:55.669
- 3 田村 武士 新潟 4:57.129

4kmチームハーフシュート

- 1 茨城 河野^杉・森^吉・田^山・岸 4:27.268
- 2 群馬 中島^三・好^横・田^手・島 4:32.614
- 3 新潟 小佐野^伊・藤^城・村^松 4:38.300

リミネーション

- 1 北村 貴幸 群馬
- 2 佐藤 悦夫 栃木
- 3 小林 潤二 群馬

チームスプリント

- 1 栃木 小田倉^長・島^{金子} 1:02.507
- 2 茨城 堀内^{鈴木}・伊^早・坂 1:03.171
- 3 群馬 矢口^木・暮^天・田 1:03.471

女子ケリ

- 1 遠峯 加奈 群馬
- 2 福田 礼佳 栃木
- 3 荒川ひかり 茨城

第43回南関東地区選手権自転車競技大会 (2016/10/27 川崎競輪場 400m)

スプリント

- 1 根田 空史 千葉
- 2 渡邊 雄太 静岡
- 3 山賀 雅仁 千葉

ケリ

- 1 海老根恵太 千葉

- 2 石井 秀治 千葉

- 3 中村 浩士 千葉

1kmタイムトライアル

- 1 加賀山 淳 千葉 1:05.012
- 2 河上 陽一 千葉 1:07.690
- 3 萩原 孝之 静岡 1:07.777

4km個人ハーフシュート

- 1 荒木 伸哉 静岡 5:18.64
- 2 川崎 健次 神奈川 5:21.43
- 3 山崎 明寛 千葉 5:24.02

4kmチームハーフシュート

- 1 神奈川 小原^嶋・津^堀・内^佐・々木 4:29.34
- 2 千葉 和田^山・本^近・藤^山・本 4:35.78
- 3 静岡 山崎^飯・尾^栗・田^築・田 4:46.15

リミネーション

- 1 武井 大介 千葉
- 2 太刀川一成 千葉
- 3 岡村 潤 静岡

チームスプリント

- 1 神奈川 郡司^和・田^巴 1:16.96
- 2 千葉 伊勢崎^田・中^藤・田 1:17.32
- 3 静岡 渡邊^齋・藤^荒・川 1:21.23

第43回中部地区選手権自転車競技大会 (2016/11/9 名古屋競輪場 400m)

スプリント

- 1 金子 貴志 愛知
- 2 松山 桂輔 愛知
- 3 今藤 康裕 岐阜

ケリ

- 1 笠松 信幸 愛知
- 2 柴崎 俊光 三重
- 3 山内 卓也 愛知

1kmタイムトライアル

- 1 竹内 雄作 岐阜 1:04.615
- 2 倉野隆太郎 愛知 1:05.445
- 3 山崎 晃 石川 1:06.101

4km個人ハーフシュート

- 1 谷口 明正 三重 4:50.11
- 2 坂上 忠克 石川 4:51.65
- 3 児玉 利文 岐阜 4:53.86

4kmチームハーフシュート

- 1 岐阜 山口^吉・田^川・西^長・尾 4:30.470
- 2 三重 若松^谷・口^神・田^廣・田 4:31.660
- 3 富山 竹澤^松・田^谷・本^吉・川 4:35.530

リミネーション

- 1 西村 光太 三重
- 2 三浦 稔希 愛知
- 3 萩原 操 三重

チームスプリント

- 1 岐阜 永井^松・岡^竹・内 1:14.841
- 2 愛知 高橋^篠・原^深・谷 1:15.677
- 3 三重 柴崎^伊・藤^谷・口 1:17.269

第39回近畿地区選手権自転車競技大会 (2016/11/9 岸和田競輪場 400m)

スプリント

- 1 小笹 隼人 京都
- 2 稲垣 裕之 京都
- 3 筒井 裕哉 兵庫

ケリ

- 1 脇本 雄太 福井

- 2 市田佳寿浩 福井
- 3 東口 善朋 和歌山

1kmタイムトライアル

- 1 渡辺 十夢 福井 1:04.579
- 2 稲毛 健太 和歌山 1:04.957
- 3 伊原 克彦 福井 1:05.299

4km個人パノシユト

- 1 岡嶋 登 大阪 4:50.197
- 2 角 令央奈 兵庫 4:55.785
- 3 中西 大 和歌山 4:59.390

4kmチームパノシユト

- 1 兵庫 池野・角・村田・木村 4:30.473
- 2 和歌山 椎木尾・小出・日浦・藤田 4:37.403
- 3 京都 菱田・大石・山田・渡辺 4:40.370

リミネイション

- 1 椎木尾拓哉 和歌山
- 2 鷲田 幸司 福井
- 3 鷲田 佳史 福井

チームスプリント

- 1 福井 伊原・野原・脇本 1:15.989
- 2 和歌山 中野・石塚・稲毛 1:17.041
- 3 滋賀 水谷・窪田・藤井 1:17.650

第43回中国地区7⁰選手権自転車競技大会
(2016/10/26 広島競輪場 400m)

スプリント

- 1 河端 朋之 岡山
- 2 工藤 文彦 岡山
- 3 山本 直 岡山

ケリツ

- 1 友定 祐己 岡山
- 2 西岡 拓朗 広島
- 3 前反祐一郎 広島

1kmタイムトライアル (タイムは参考記録)

- 1 滝本 泰行 岡山 1:04.965
- 2 大屋 健司 広島 1:05.707
- 3 山下 一輝 山口 1:05.988

4km個人パノシユト

- 1 高田 大輔 岡山 5:06.480
- 2 月森 亮輔 岡山 5:24.350
- 3 阿部 充宏 山口 5:30.440

4kmチームパノシユト

- 1 岡山 三宅・藤原・川本・多田 4:38.40
- 2 山口 隅・内村・山下・清水 4:46.92
- 3 広島 古川・才迫^男・才迫^男・三登 5:00.53

リミネイション

- 1 松浦 悠士 広島
- 2 柳谷 崇 岡山
- 3 柏野 智典 岡山

チームスプリント

- 1 岡山 戸田・黒田・取鳥 1:16.67
- 2 広島 吉本・池田・佐伯 1:16.87
- 3 山口 内村・隅・田口 1:18.21

第43回四国地区7⁰選手権自転車競技大会
(2016/11/8 小松島競輪場 400m)

スプリント (雨天のため予選タイムで順位決定)

- 1 太田 竜馬 徳島
- 2 原 誠宏 香川
- 3 阿竹 智史 徳島

ケリツ

- 1 原田研太郎 徳島
- 2 橋本 強 愛媛
- 3 香川 雄介 香川

1kmタイムトライアル

- 1 藤岡 隆治 徳島 1:07.754
- 2 大西 祐 香川 1:08.352
- 3 島川 将貴 徳島 1:08.579

4km個人パノシユト

- 1 横内 裕人 愛媛 4:58.79
- 2 篠原 龍馬 高知 5:06.32
- 3 蓮井 祐輝 香川 5:06.68

4kmチームパノシユト

- 1 香川 福島・眞鍋・網谷・近藤 4:44.15

- 2 徳島 山形・伊藤・松本・小川 4:44.52
- 3 愛媛 鳥生・芳野・高山・野村 4:48.31

チームスプリント

- 1 香川 池田・福島・戸田 1:17.16
- 2 徳島 堤・高原・久米 1:18.36
- 3 愛媛 濱田・橋本・日野 1:19.47

第43回九州地区7⁰選手権自転車競技大会
(2016/10/26 武雄競輪場 400m)

スプリント

- 1 荒井 崇博 佐賀
- 2 前田 義和 鹿児島
- 3 坂本 亮馬 福岡

ケリツ

- 1 井上 昌己 長崎
- 2 山田 英明 佐賀
- 3 松岡 貴久 熊本

1kmタイムトライアル

- 1 小川 賢人 福岡 1:06.716
- 2 佐藤 幸治 長崎 1:06.809
- 3 下沖 功児 宮崎 1:06.900

4km個人パノシユト

- 1 成松 春樹 佐賀 4:50.743
- 2 松岡 孔明 熊本 4:53.436
- 3 池部 壮太 大分 5:04.066

4kmチームパノシユト

- 1 大分 加藤・安東・小岩・鈴木 4:28.371
- 2 佐賀 坂本・佐々木・好永・古川 4:33.389
- 3 福岡 西田・松尾・柳詰・嶋田 4:34.714

リミネイション

- 1 松尾信太郎 福岡
- 2 櫻山 恭柄 福岡
- 3 渡邊 満 福岡

チームスプリント

- 1 熊本 松本・森山・中川 1:17.049
- 2 長崎 山口・佐藤・西田 1:17.572
- 3 鹿児島 上吹越・下沖・新納 1:18.498



阿部 嵩之 (宇都宮ブリッセン)





ROAD RACES

24th Feb. - 3rd Mar. 2017
Bahrain International Circuit

銀メダルのチームタイムトライアル

【エリート男子 / U23 男子】

2月25日

■チームタイムトライアル

アジア選手権初日の種目は新規に採用されたチームタイムトライアル。日本チームは沖縄の事前合宿に参加した増田、西園、雨澤、小野寺、岡本に、ヨーロッパから合流の新城を加えた6人のチーム編成。前日の試走を基に最終的なフォーメーションと戦略を組み立ててレースに臨む。ロードレースとタイムトライアル共通の、パーレンサーキットと施設道路を組み合わせた12.8kmは、フラット中心ながらテクニカルなコース。チームは安定したペースとフォーメーションで周回を重ね、大きな崩れもなく3周を走破、平均速度で1km/h上回るトップのカザフスタンから、1分遅れの2位のタイムでゴールした。同種目はロードレース強化に不可欠な種目となる。アジア選手権の種目に加わったことを機会に今後もナショナルチームとして力を入れて行きたい。

2月27日

■U23 男子個人タイムトライアル

昨シーズンより力を伸ばしている小野寺玲が代表として出場。小野寺は前半のラップタイムこそ中国のZHANGに続く2位通過だったが、後半もペースを落とすことなく走り切り、若干ペースダウンしたZHANGを逆転して優勝した。小野寺は2日前のチームタイム

U23 タイムトライアル優勝の小野寺



トライアルでも最後の3名に残り実力を見せていた。



エリート男子タイムトライアル 8位の西園

■エリート男子個人タイムトライアル

2016年同種目日本チャンピオンの西園良太が出場。西園は今大会に向けて計画通りにトレーニングを消化し、順調に本番前日まで仕上げてきた。しかし当日の調子が優れず序盤から思い通りの走りが出来ないまま、8位という不本意な順位でレースを終えた。

3月1日

■U23 男子ロードレース

U23 カテゴリーにとっては、世界選手権出場のためのポイント獲得に最重要な大会。早い時期から合宿を重ねての必勝態勢で臨む。今回のライバルは実力で格上のカザフスタンだが、レース序盤から石上と雨澤が良く動き、小野寺と岡本を温存したまま終盤まで持ち込んだ。予想外の集団ゴールスプリントでも岡本をエースに立て、

石上と小野寺のリードで発射準備完了。岡本はトラック競技で鍛えた持ち前のスプリント力で好展開し、各上カザフスタンのGIDICHに僅かタイヤ1本の差をつけて優勝。信頼関係で築かれたチームワークが勝利をもたらした。



スタート前の U23 男子選手



U23 男子優勝の岡本



U23 男子 7 位の小野寺



U23 男子 23 位の石上



U23 男子の雨澤

3月2日

■エリート男子ロードレース

エリートロードレースは事前合宿から参加の増田以外の選手は現地合流となったが、日本を代表する現在の最強メンバーでスタートした。ライバルチームは機動力のあるカザフスタン、選手個々では各国のエースに警戒を強めた。レースは高速で進み繰り返されるアタックと逃げの展開の中、別府と増田を含む9名の先行集団が出来るが、増田はパンクで後退してしまい8名のリードグループとなる。レース後半には新城を含む4名の追走グループが、徐々にリードグループに近づき最終回には先頭に合流。2名が脱落して、レースは10名の先頭グループに、別府と新城が入る必勝パターンに持ち込まれた。ラスト1km手前でスパートをかけたカザフスタンに、新城が追走して先頭は2名に。ラスト300m付近で2名を飲み込む集団から別府がスプリントをするが、タイミングが早すぎたため後方から3人に抜かれ4位でゴール。新城は流れ込んでの7位でゴールした。今回参加チームとしては日本が最強であり、途中アクシデントもありながら勝てる態勢までレースを運べたものの、最後は勝利に結びつけられなかったことが残念でならない。

●総評

ロードレースではアジア選手権での実力が世界の實力に繋がるものとは言い切れないが、各大陸選手権同様、アジア選手権も昨年よりUCIポイントの配点が非常に高くなり、世界選手権ロード出場枠獲得のための国別ランキング上昇には非常に重要なレースになっている。そのような状況の中、エリート男女は今シーズンのスタートダッシュで、好スタートを切ったとは言い難い。今後は各所属チームでの活躍と成長を、全面的にサポートしていきたい。一方、男子ロード強化育成の最重要カテゴリーであるU23においては、文句無しの完全優勝。9月の世界選手権出場枠獲得、そして8月に行われるU23のツール・ド・フランス「ツール・ド・ラブニール」への挑戦に向けてのスタートダッシュに成功したといえよう。

(JCF 強化コーチ 浅田 顕)



スタート前のエリート男子
天候が悪く、チームの雨具を着る。



エリート男子 4 位の別府



エリート男子 7 位の新城



エリート男子 26 位の増田



エリート男子 28 位の窪木

[ジュニア男女 / エリート女子]

■ジュニア男子個人タイムトライアル

コースはロードと同じコースを2周回 25.8km で争われた。合宿で圧倒的な強さを見せていた松田祥位が怪我のため参加できず、蠣崎優仁が走ることとなった。

蠣崎はTTバイクをうまく扱いコーナーやUターン区間では良い走りを見せたが、平坦区間でタイムを失い優勝したカザフスタンから2分35秒遅れの6位に終わった。

ジュニア男子 個人TT6位の蠣崎



■ジュニア女子個人タイムトライアル

女子ジュニアは1周回 12.8km のコースで、日本からはエースの下山美寿々が参加した。下山は平坦区間と緩い登り区間では非常に良いペースを刻んだが、コーナー、Uターン、狭い道でのブレーキのタイミングが早く、ここで大きくタイムを失った。優勝した中国のKANG Qiaoから37秒遅れの4位に終わった。



ジュニア女子 個人TT4位の下山

■エリート女子個人タイムトライアル

エリート女子は2周回 25.8km で争われ、日本からは梶原悠未が参加した。前走者の韓国のLee Jumiとの戦いが予想されたが、中国のLIANG Hongyuが好タイムで最速タイムを更新していく。梶原はよいペースを刻むも、ジワジワとタイム差をつけられ、それでもベストを尽くし3位に入った。

エリート女子 個人TT3位の梶原



■ジュニア男子ロードレース

2月25日から開催のアジア選手権はタイムトライアル種目が終わり、28日からはロードレースが始まった。ロード初戦としてジュニア男子が行なわれ、日本チームは篠田幸希、蠣崎優仁、塩島高一朗、佐藤健の4名が参加した。

当初は平坦メインのバーレーンサーキットの一部とその外周コースを使う予定であったが、現地に到着後急遽変更になり、緩い登りも加わった12.8kmの周回コースを7周する

89.6kmでレースは争われた。

最大のライバルは、世界でもトップレベルの攻撃力を備えるカザフスタン。例年アジア選手権では1周目から複数名で攻撃する戦い方をしており、スタートと同時にレースが動くことが予想され、日本チームはそれに対応するべく準備して臨んだ。

予想通りカザフスタンがスタート直後から、複数名で攻撃を続け続けた。道の狭い区間での2名の攻撃に日本チームは対応できず、イランを含めた3名の先行を許してしまう。追走をかけるがレース前の予想通り協力してくれるチームは現れず、最終的にはこのままゴールまで逃げ切られてしまうことになる。だがカザフスタンの2名がイランをどこかで置き去りにすることが予想されるので、まだ日本が表彰台を狙うチャンスはある。日本チームは2名が集団を引張り先頭とのタイム差が広がり過ぎないようにして、他の2名がカザフスタンのさらなる先頭ブリッジに備えた。だがマークを外してしまい集団から1名、そして1名とカザフスタンがメイングループから抜け出してしまふ。先頭3名からはカザ



ジュニア男子の蠣崎



ジュニア男子の塩島、篠田、佐藤



スタート前のジュニア男子

フスタンのアタックで予想通りイランが遅れ、2名でゴールへ。集団から抜け出したカザフスタンの選手がイランの選手に追いつく勢いであったが、届かずイランが3位。カザフスタンは1位、2位、4位、5位と4選手全員が集団を抜け出して上位を独占した。日本チームは常に後手に回り、結果を残せずに終わった。

■エリート女子ロードレース



スタート前のエリート女子

女子ロードレースは当初予定していたメンバーが落車で怪我をしたため、吉川美穂と梶原悠末の2名で参加した。ジュニア男子と同じ周回コースを7周する89.6kmで争われた。

最初の3周は33km/hほどの非常に遅いペースでレースが進む。4周目の下り区間で攻撃がかかり8名の先頭グループが形成され、その中に吉川が入る。この8名は人数を減らして5名となり、集団に一気に30秒以上の差をつける。日本、韓国、中国、香港、

カザフスタンと強豪5か国が入ったことで乗り遅れた台湾、タイらが追いつけるがタイム差は徐々に広がり、ラスト1周に入るあたりには約1分の差がついた。ここで先頭集団からは中国が脱落して4名となる。メイン集団からは8名の追走集団が出来、その中に梶原が入る。追走集団も勢いがあつたが、先頭集団もペースを落とさず逃げ切りが決定する。先頭グループの中では吉川が一番スプリント力があると思われたが、ラスト周回のアタック合戦での対応で消耗してのスプリントとなり3位に終わった。後続では追走集団を粉砕して最後1人抜け出した梶原が5位に入った。

■ジュニア女子ロードレース

ジュニア女子のレースは1周12.8kmのコースを5周する64kmで争われた。日本チームは連覇を狙い下山美寿々、細谷夢菜、石上夢乃、成海綾香の4名が参加した。

1日目、2日目とカザフスタン、中国がアタックを仕掛けてくるが、大きな差はつかず一つの集団で進む。3周目に下山を含む8名の先行グループが出来る。先頭グループにチームから複数名乗せるために、後続でも細谷と石上が追撃の動きを行なうが、先頭集団に追いつくことはなくタイム差も広がってしまう。

4周目後半に下山は後ろからのチームメイトの合流を諦めた。そのままゴールまで8名が逃げ切り、下山は良い位置でラスト300mのコーナーを曲がったが、最後は唯一先頭集団に2名の選手を送り込んだ中国の選手に抜かれて2位となった。今回の日本チームは複数名を先頭集団に送り込むだけの力があつたが、チーム力を生かす戦いとはならなかった。(JCF強化コーチ 柿木孝之)



スタート前のジュニア女子



ジュニア女子2位の下山



ジュニア女子10位の細谷



ジュニア女子17位の石上



ジュニア女子22位の成海



エリート女子の吉川と梶原

【競技結果】

第37回アジア自転車競技選手権大会
(2017/2/25-3/2 バレーン)

チームタイムトライアル (38.4km)

- | | | |
|---|-----------------------|----------|
| 1 | カザフスタン | 47:20.77 |
| 2 | 日本 新城・増田・西菌・雨澤・小野寺・岡本 | 48:20.79 |
| 3 | ホンコンチャイ | 48:48:49 |



U23男子個人タイムトライアル (38.4km)

- | | | |
|---|---------------------|----------|
| 1 | GRUZDEV Dmitriy KAZ | 49:21.13 |
| 2 | CHOE Hyeongmin KOR | 50:31.74 |
| 3 | CHEUNG King Lok HKG | 50:38.81 |
| 8 | 西菌 良太 鹿児島 BS アンカー | 52:49.79 |

U23男子個人タイムトライアル (25.6km)

- | | | |
|---|-------------------|----------|
| 1 | 小野寺 玲 栃木 ブリッセン | 34:21.16 |
| 2 | ZHANG Zheng CHN | 34:26.69 |
| 3 | NATAROV Yuriy KAZ | 34:30.29 |



ジュニア男子個人タイムトライアル (25.6km)

- | | | |
|---|-------------------------|----------|
| 1 | CHZHAN Igor KAZ | 34:29.63 |
| 2 | YU Ze CHN | 35:38.86 |
| 3 | SHODIEV Iskandarbek UZB | 36:02.08 |
| 6 | 嶋崎 優仁 静岡 伊豆総合 | 37:04.68 |

U23男子個人タイムトライアル (25.6km)

- | | | |
|---|------------------|----------|
| 1 | LIANG Hongyu CHN | 36:48.20 |
| 2 | LEE Jumi KOR | 36:56.43 |
| 3 | 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 | 37:42.17 |



ジュニア女子個人タイムトライアル (12.8km)

- | | | |
|---|--------------------------------|----------|
| 1 | KANG Qiao CHN | 19:29.17 |
| 2 | KURNOSSOVA Marina KAZ | 19:49.63 |
| 3 | SETIAWAN Lintin Evangelina INA | 19:50.28 |
| 4 | 下山美寿々 大阪 天王寺高 | 20:06.77 |

U23男子ロードレース (153.6km)

- | | | |
|----|----------------------------|---------|
| 1 | PARK Sanghong KOR | 3:49:16 |
| 2 | MIRZA ALHAMMADI Yousif UAE | 3:49:16 |
| 3 | BIZHIGITOV Zhandos KAZ | 3:49:16 |
| 4 | 別府 史之 JPCA トレック | 3:49:16 |
| 7 | 新城 幸也 JPCA バレーンメリタ | 3:49:16 |
| 26 | 増田 成幸 JPCA ブリッセン | 4:00:50 |
| 28 | 窪木 一茂 和歌山 NIPPO V.F. | 4:00:50 |



- | | | |
|----|-----------------|---------|
| 7 | 小野寺 玲 栃木 ブリッセン | 2:44:43 |
| 23 | 石上 優大 神奈川 EQADS | 2:45:11 |
| | 雨澤 毅明 栃木 ブリッセン | DNF |

ジュニア男子ロードレース (89.6km)

- | | | |
|----|--------------------------------------|---------|
| 1 | MARUKHIN Daniil KAZ | 2:10:31 |
| 2 | CHZHAN Igor KAZ | 2:10:31 |
| 3 | JAMSHIDIAN GHALEHSEFIDI Amirhoss IRI | 2:10:45 |
| 9 | 篠田 幸希 群馬 前橋工業高 | 2:11:20 |
| 30 | 塩島高一郎 鹿児島 南大隅高校 | 2:11:27 |
| 31 | 嶋崎 優仁 静岡 伊豆総合高 | 2:11:27 |
| 34 | 佐藤 健 熊本 九州学院高 | 2:13:40 |

U23女子ロードレース (89.6km)

- | | | |
|---|-------------------|---------|
| 1 | YANG Qianyu HKG | 2:32:50 |
| 2 | NA Ahreum KOR | 2:32:50 |
| 3 | 吉川 美穂 和歌山 Live G. | 2:32:50 |



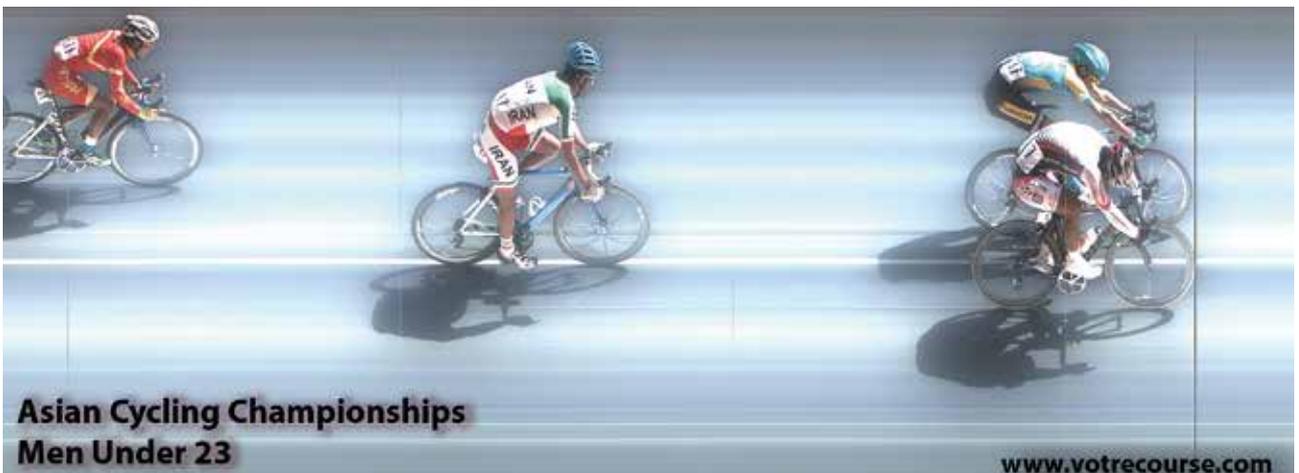
- | | | |
|---|---------------|---------|
| 5 | 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 | 2:33:28 |
|---|---------------|---------|

ジュニア女子ロードレース (64km)

- | | | |
|---|-----------------------|---------|
| 1 | CHANG Yue CHN | 1:53:18 |
| 2 | 下山美寿々 大阪 天王寺高校 | 1:53:18 |
| 3 | BATRIYA Chaniporn THA | 1:53:18 |



- | | | |
|----|-----------------|---------|
| 10 | 細谷 夢菜 埼玉 浦和工業高 | 1:54:02 |
| 17 | 石上 夢乃 神奈川 横浜創学館 | 1:54:02 |
| 22 | 成海 綾香 鹿児島 南大隅高校 | 1:56:02 |



U23男子、岡本微差のフィニッシュ



エリート女子3位の吉川

エリート男子4位の別府



2017年ロードアジア自転車競技選手権大会 日本代表選手団

大会名 2017年ロードアジア自転車競技選手権大会

大会日程 2017年2月25日～3月2日

開催場所 バーレーン

代表選手団

- コーチ 浅田 顕 (ロードコーチ)
- 柿木 孝之 (ロードコーチ)
- 大野 直志 (ジュニア強化育成支援スタッフ)
- メカニック 西 勉 (強化支援スタッフ)
- 高橋 優平 (強化支援スタッフ)
- マッサー 穴田 悠吾 (強化支援スタッフ)
- 井上 良輝 (強化支援スタッフ)
- ドクター 内田 彰子 (医科学部会員)
- 総務 貝塚 直子 (事務局)
- 選手 <エリート男女>

- 別府 史之 (JPCA・トレック・セガフレード)
- 新城 幸也 (JPCA・バーレーン・メリタ)
- 増田 成幸 (JPCA・宇都宮ブリッツェン)
- 窪木 一茂 (和歌山・NIPPO VINI FANTINI)
- 西園 良太 (鹿児島・プリヂストン・アンカー)
- 吉川 美穂 (和歌山・Live GARDEN BICI STELLE)
- 梶原 悠未 (埼玉・筑波大学)
- <U23男子>
- 雨澤 毅明 (栃木・宇都宮ブリッツェン)
- 小野寺 玲 (栃木・宇都宮ブリッツェン)
- 岡本 隼 (東京・日本大学)
- 石上 優大 (神奈川・EQADS)
- <ジュニア男女>
- 壱崎 優仁 (静岡・伊豆総合高校)
- 佐藤 健 (熊本・九州学院高校)
- 篠田 幸希 (群馬・前橋工業高校)
- 塩島嵩一朗 (鹿児島・南大隅高校)
- 下山美寿々 (大阪・大阪教育大学附属天王寺高校)
- 細谷 夢菜 (埼玉・浦和工業高校)
- 石上 夢乃 (神奈川・横浜創学館高校)
- 成海 綾香 (鹿児島・南大隅高校)



U23 男子 TT 優勝の小野寺



チームタイムトライアル 2 位



エリート女子 TT3 位の梶原

ASIAN CYCLING CHAMPIONSHIPS ROAD RACES

24th Feb. - 3rd Mar. 2017 Bahrain International Circuit



アジア選手権ロードレース U23 男子のフィニッシュ、左端が1位の岡本

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.223 2017年2・3月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/坂井田 米治

編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F

TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

